

文化の香り高く、小さくともいきいきとした小鹿野町の創生

ポストコロナ元年のスタート!!

この3年以上にわたって私たちの生活に甚大な影響を与えた新型コロナウイルス感染症については、感染拡大の状況がだいぶ落ち着いてきて、本年5月8日から感染症法上の位置付けが2類相当から5類へと移行となりました。

しかし、新型コロナウイルスが無くなった訳ではな

く、油断することなく、今まで行ってきた手洗い等の基本的な感染予防対策を講じながら新しい生活習慣を取り入れ、普段どおりの生活に徐々に戻していく必要があると思います。

この1年は、まさに『ポストコロナ元年』にしたいと存じます。

祭りやイベントなどの復活により、人と人との交流を活発化し、地域のコミュニティ力を再生していく

小鹿野町の強みである、地域のコミュニティ力を再生し、人と人の絆を大切にし、住民・事業所・行政が連携し「共働・共創」により地域づくりを進めることが今求められています。

タウン・プライドを醸成し、住んでいて良かったと思える町の構築

「タウン・プライド (Town Pride)」とは、自身が住む町に対する町民の誇りを指す言葉です。「郷土愛」と似た言葉ですが、単に地域に対する愛着を示すだけでなく、自分自身が係わって地域をより良くして行こうとする、町民の当事者意識に基づく自負心をも意味しています。

このタウン・プライドをしっかりと醸成できることが、小鹿野町が持続可能な町として生き残りができるかどうかの大きなポイントだと思います。

地域包括ケアシステムの維持発展

小鹿野町の最大のセールスポイントは、町民の命と健康を守る保健・医療・福祉・介護サービスの横連携がしっかり出来ている「地域包括ケアシステム」が確立していることです。

町民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らせるために、このシステムをしっかり守り発展させていくことが、町にとって基本的なことであり、非常に大切なことです。

そして、体と心と社会の良い状態(ウェルビーイング)が持続できる町を目指したいと存じます。

《令和5年度における小鹿野町の3つの主要施策》

- ①関係人口・交流人口の創出を図るための観光事業の推進
 - 地域と一体となった観光地、観光事業の再生、高付加価値化の推進(国民宿舎両神荘の改修事業等)
 - 埼玉版スーパーシティプロジェクトの推進(道の駅両神温泉薬師の湯の整備等)
- ②移住・定住したくなるまちづくりの推進
 - 空き家の有効利用を図るための情報収集(調査)及び検討
 - 移住・定住促進のための住宅施策の推進(公共用地を活用した宅地分譲計画の策定等)
- ③安心して産み育てられるまちづくりの推進
 - 子育て支援策の継続発展と「こども課」創設による少子化対策
 - 令和7年度小学校統合に向けた小鹿野小学校における学習環境の改善等

《今後の小鹿野町の大きな課題》

移住・定住の基本となるのは、魅力ある仕事(就労の場)の確保です。秩父圏域内には優良な企業・事業所もたくさんあるので、そこへの若年層の就労のマッチングがまずは大切です。

次に、一定の収益や付加価値を生み出す仕事を創り育てることが大切です。それには産・学・官・金の連携が大事です。

小鹿野町のような中山間地域では「豊かな田舎」になるため、そこでの暮らしの中で富を生み出し、税負担等の出来る、しっかりした生業を持てる人たちの暮らしの場として行かねばなりません。

更に今後の人口減少に備え、人が減っても暮らし続けることが出来る環境整備は喫緊の課題です。

森真太郎後援会だより

第14号 討議資料
令和5年 月10日発行

MORI-SHINTAROU



小鹿野町役場新庁舎落成!!



新庁舎落成式で来賓と共にテープカット

大野埼玉県知事新庁舎視察



落成記念式典で挨拶する森町長

小鹿野町議会議場▶



議場(ホール)で開催された
柿落とし歌舞伎



新庁舎は市街地入口のランドマーク



小鹿野中学校卒業式(卒業生のみマスク無し)



大野知事は春まつりも視察



森 真太郎の政治信条

- 町民ファーストの町政推進
- 町民との対話を重視した、開かれた公平・公正な町政推進
- 現場主義に徹した町政推進
- 積極的にチャレンジする町政推進
- 文化や歴史を大切にする町政推進

ワクチン集団接種で案内係りを務める森町長



第14号 令和5年7月10日発行 討議資料

森真太郎後援会だより
森真太郎 後援会 ☎0494(75)0510

〒368-0101 秩父郡小鹿野町下小鹿野226